

帯広畜産大学同窓会報

第6号 平成11年10月 帯広市稲田町西2帯広畜産大学内 帯広畜産大学同窓会事務局発行



第6号よせて

会長 吉川 睦夫 (農 S25)

ある雑誌の表紙裏の扉に同窓生の記事が掲載されていました。その方はH5環境学科卒業の田村絵美さんが現在東京のHIS ランゲリーセンターで在日の外国人ビジネスマンやその家族への日本語教師をしておられるとのことでした。詳細は省きますが、褒められた内容で読んでいて、大変気持ちの良い記事でした。私は「へー、わが畜大の卒業生も随分多方面で活躍しているなア」と驚き、古い卒業生である我々にとって、その活躍の分野から言っても又女性の方がその第一線で紹介をうけていることを頼もしく思った次第であります。そして、又たまさか訪れる母校のキャンパスの状況から、この様な卒業生の社会での活躍は、現在の大学の姿からして当然のことと納得するのであります。このようなことから、現代の変貌著しきさなか、大学も卒業生も、まさにその激浪の大海で、時代に応じた進展・変化をうけていることを身をもって知ることができそうです。

つい先日、同窓会の代議員会が開催されました。主として議題は、やがて迎える「60周年記念事業」についてや今年10月の総会についてでありましたが、その席の話題として、獣医学科の移転問題等を含めて、今後母校帯広畜産大学はどの様になるのだろうか、たとえば100周年時の姿はどんなものになっている等も話し合われました。勿論現況の判断としてはその見通しなどを軽々しく出せることなどないのは当然として、しかし現在の我々として為すべきことは、開学以来多くの方々が主体的に努力されて遺されてきた様々なもの、有形無形を問わずの中には絶対に忘れてはいけないもの、後代に伝えなければならないものがある、それを現時点できちんと整理分け、整理をし、且つそれをどの様な形で残してゆくべきかを工夫する事が大切、との意向が継ぎました。こうした努力の積み重ねなしには、それぞれの在籍した時代とは、目まぐるしく変化している、卒業生にとっては自分たちの大学のイメージとはまったく違ってしまつて、ついには母校に距離をおいた心情にならないとも限らない。そのために、『古い、あの牛舎』とか『懐かしい実験室』等など…皆が「ああ、あれ…」といえるものを選び出したり、残すべき方法を考え、工夫し、相談し、具体的実践に取りかかるべきではないでしょうか。

〇〇周年記念とは、大学に関係する人達が、そこでちょっと立ち止まり、腕組みをして、振り返り、見直し、静かに声でゆっくりと会話する、そんな節目かなど、私は思っています。同窓生の方々、あなた方が在学したそれぞれの時代に『これは大切、これは無くしたくない』と言われるものがきっとあった事と思います。是非それらを事務局にお届け下さいますようお願いいたします。そのことが、

つまりは母校の伝統継承と言うことだと思います。最後になりましたが、皆様のご健勝を祈念致します。



駒翠の学園より一言

学長 久保 嘉治

帯広畜産大学同窓会員の皆様方には、それぞれご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。大学は、皆様方の力強い御支援のお陰で、平成10年度には、別科(草地畜産専修)13名、学部課程269名、大学院修士課程41名、合計326名を社会に送り出すことができました。卒業式には吉川会長にご出席戴き、心温まる祝辞を頂戴いたしました。卒業生の皆様は、駒翠の学園で学んだ事による絆を、心に深く刻んだことと思います。

一昨年末から毎年同窓会より、事務局職員の国際研修を支援する目的で、奨学寄附金を戴いているので、平成10年には八重樫国際担当専門員を、フィリピン大学ロスバニオス校に送り、学生交流の実態を確かめ、学生の生活や学習の支援の仕方について、研修させました。今後とも交流協定締結校に計画的に派遣し、学生や学術の交流を円滑に進める知恵を蓄積させて戴きます。ご協力に厚く感謝申し上げます。

ここで嬉しいニュースを三つ申し添えます。4年半余り原虫病関係の客員教授として本学に来て下さっていた蛭海啓行氏は、アフリカ睡眠病や牛のズルラ病の原因となる病原性原虫トリパノソーマの培養法を確立された功績により、北海道科学技術賞を、獣医学科の品川森一教授は、羊のスクレイビーの早期診断法開発により、中央畜産会優秀畜産表彰事業で研究開発部門最優秀賞を、それぞれ受賞されました。また一昨年の会報に工事中と報告していた「地域共同研究センター」の建物が、平成10年度の優秀施設として高い評価を受け、このたび文部省より文教施設部長賞(計画部門)を受けました。このように教職員それぞれが専門の分野で評価を受ける事に精進しておりますので、今後ともご支援ご鞭撻の程をお願いいたします。



元の農産化学棟の跡に出来たビオトープ(池)、学部棟の屋上から撮影したもので、奥の高い建物は生物資源科学棟です。



とし6月の畜大キャンパスは久しぶりに新緑が爽やかでした。同窓生の皆さんにはご清勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

2年後に21世紀の始まりと本学の創立60周年を控えた1999年の畜大キャンパスの様子をお伝えいたします。

まず、学生の多様化が依然として進んでおります。それもいろんな面に及んでいます。女子学生の割合5割前後、新入生の8割以上が道外出身者、留学生や社会人入学生の増加、3年次編入学生、岐阜連大と岩手連大の博士課程など。さらに、高校教育と入試の多様化による学力のバラツキ。とし本学もはじめて高校教育レベルの補習教育を実施したところ新聞やテレビで話題になりました。学力ばかりでなく適性やメンタルな面でも10数年前には考えられなかった多様性がみられます。これは、10年後に迎える大学全入時代の先触れでありましょうか。

ご存知のとおり、2009年には大学を選ばなければ希望者全員が進学できると予測されています。このことは大学と高校の垣根がなくなることを意味し、これまでの大学側の一方的な選抜から、魅力がなければ進学者から敬遠され、魅力があるほど優秀な志願者を多く集められるという競争時代を迎えます。畜大の魅力が一番知っているのは卒業生の諸兄であります。折に触れて、畜大を宣伝していただければ幸いです。また子どもさんが受験期を迎えられていた同窓生も多いと思います。昨年から、2年間の専門学修を終了した人も短大卒の人も同じく、本学の3年次編入試験を受けられるようになりました。ご存知でしたか。推薦入学も農業高校ばかりでなく、普通高校にも対象を拡げました。詳しくは、大学入試係にお気軽に問い合わせ下さい。

最後に、一万人を越えた同窓生の皆さんが21世紀の畜大の最大の応援者であることを願っています。

(平成11年7月10日記)

☆ 学科などの近況 ☆

ww 獣医学科 ww

学科長 白幡 敏一

同窓生の皆様にはご健勝にご活躍のことと存じます。この夏、十勝地方は好天に恵まれて真夏日が20日以上もあった暑い夏でした。獣医学科の近況をお知らせします。本年度卒業生の進路状況は、小動物13、大動物3、公務員8、企業5、進学5名、フリーターや他大学受験者が数名等となっております。氷河期とも言われる就職難の時代にあつて、善戦健闘と言えなくもないのですが、昨今の就職戦線の厳しさは獣医学界も例外ではありません。卒後の進路につきまして、今後ともご支援を賜りますよう先ずお願い申し上げます。入学状況は、男子24名、女子18名で、道内出身者は4名です。

教官の人事異動では、改組に伴い、旧教養課程から獣医学科の生理学講座に移られた松澤時広教授が停年退官され、後任に、前田龍一郎助教授が赴任されました。微生物学講座では太田千佳子先生が昨年10月に退職され、新進気鋭の度会(わたらい)雅久助手が赴任されました。また、薬理学講座に石井利明助教授をお迎えしました。

家畜病院教授には宮原和郎先生が、助教に石川潤先生が昇任しました。長期在外研修員として派遣された、北村先生(解剖)、堀内先生(原虫)、高木先生(繁殖)が、それぞれ、英国、米国、オランダから帰国し、一層の活躍が期待されます。

さて、昨年来話題になっています、獣医学科の「再編・整備」に関して若干触れさせていただきます。私共はこの間に、学内や地域を訪問し、獣医学教育の充実について、懇談を重ねて参りましたが、今まで目立った進展はありません。急激な少子化と高等教育機関の国際基準化が進行する背景からも、獣医学科や学部改革は避けて通れない課題です。本学が獣医学教育充実の方策として「自助努力」、「統廃合」の何れを選択するのか、あるいは第3の道を模索するのか、広範な議論が必要です。皆様の忌憚のない提言とご指導を頂ければと存じます。

最後になりましたが、皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念します。

PPP 畜産管理学科 PPP 学科長 福井 豊

「畜大同窓会」の皆様には如何お過ごしですか?

世間は、不況・失業・ガイドラインなどなど、波乱の20世紀を締めくくろうとする社会活動の低迷が続いているようです。このような状況の中で、畜大卒業生はどのような考えで次世紀を待っているのでしょうか?

畜大内でも、この一年間大学の将来問題について各学科内および種々の委員会で検討され始めました。畜産管理学科でも「将来構想プロジェクト」を起こし、畜大の将来を新たな考えで再構築したいと思っています。具体的には、基本ビジョンとして“個性があり、体で表現できる畜大生を排出する”ため、教育システムおよび研究支援体制を作り上げることが重要だと考えています。そのためには、教授陣のリーダーシップと若手教官のさらなる活躍が必要です。当学科は、この一年間に瀬尾哲也助手(共生家畜システム学講座、家畜管理部門)、河合正人助手(家畜生産機能学講座、家畜栄養部門)、徐世旭助手(畜産経営管理学講座、韓国出身)そして手塚雅文講師(家畜育種増殖学講座、増殖部門)の4名の若手教官を採用しました。お陰で学科は大変若返り、生産系と経営・経済系の2コースを有する学科の“両輪”が大いに加速されました。

これから、社会そして世界から認められるためには、畜大の特色(それは、卒業生の質と教官陣の個性ある研究課題とその研究成果の社会への還元度)を大いにPRしていくべきだと思っております。それが、21世紀でも生き残れる大学となっていくでしょう。畜大同窓生の皆様の20世紀から21世紀への移行がスムーズに悔いなく、そして自己発展されんことを期待しております。

AAA 畜産環境科学科 AAA 学科長 宮本 啓二

卒業生の皆様にはますますご健勝のことと思います。今年も本学科から91名の学士と20名の修士を送り出しました。今年は初めての3年次編入生が優秀な成績で卒業し、中には現在に進学した人もいます。就職については3月31日現在、学部では就職希望者54人中37人、修士課程では7人中5人で、約70%に留まっており、就職難を反映しています。他方、進学希望者もそれぞれ26人、6人に達し、高学歴化が進んでいます。

新入学者は学部98人、修士課程24人で今年は女子がそれぞれ64人、13人で、学部では65%に達し、大きく過半数をこえました。大学全体でも52%と開学以来初めて過半数をこえました。また今年はベビーブーム時代の臨時措置として行われてきた畜産環境科学科3人の増募がいよいよ本格的な少子化時代を迎え、最後となることがほぼ決まっております。少子化の影響は増募の停止に留まらず、国の対策として、近々大学の整理、淘汰もふまえた改革が取りざたされており、本学もその波にもまれることが予想されています。教職員一同は対処に手抜かりのないよう対応策に知恵を絞っています。なにより有効なこととは21世紀に向け本学が社会に何を貢献できるかという明確な個性であり、それを支える卒業生のご支援と思ひます。

諸先生の近況は昆虫学の堀浩二先生、農業動力学の谷口哲司先生が停年退官され寂しくなりました。しかし、草地学講座の本江先生は教授になられ、生物生産システム工学講座(旧農業機械3講座)には北海道農業試験場から西崎邦夫教授を、草地学講座には秋本正博助手を迎え、活気を取り戻しました。諸先生一同はそれぞれ元気に活躍しております。7月末には草地学の岡本教授が、長年育ててこられた中国新疆自治区新疆農業大学との交流が実を結び、本学と交流協定調印のため、学長と嶋田教授とともに渡航されました。

卒業生の皆様におかれましては、ますますお元気にご活躍下さいませよう祈念致しますとともに、折に触れ来学、近況お知らせ頂ければ幸いです。

ccc 生物資源科学科 ccc 学科長 中野 益男

帯広・十勝は数十年ぶりの猛暑に見舞われましたが、同窓生の皆様にはご健勝にお過ごしのことと思ひます。この月に61名の卒業生、13名の修了生が巣立ち、さらに連合大学院より2名が博士(農学)を授与されております。4月には学部53名、18名の修士課程、3名の博士課程がフレッシュ・マンとして入学しました。とくに、学部4年次以上の学生は論文作成のために研究に励んでおり、本学唯一の高層ビル(6階建て)である生物資源科学棟は深夜でも明かりが消えることはありません。

教官にも大きな移動がありました。30年以上わたって、教育、研究ならびに本学の整備等に多大な貢献をされました伊藤精亮教授と佐藤哲也教授は3月末をもって停年退官されました。現在、伊藤先生は帯広で、佐藤先生は札幌で、それぞれ悠々自適の生活を送られております。短期間の在職でしたが、DNA関係の研究を続けてこられた吾妻 健助教授(環境生化学)は4月より、高知医大の教授として活躍されています。この4月より荒井威吉助教授(酪農化学)が教授に、大和田琢二講師(生物機能開発学)と福島道広助手(環境生化学)は助教授にそれぞれ昇任されました。さらに、吾妻先生の後任として、近藤泰男教授(環境生化学)が採用されました。近藤先生のお兄さんは畜産環境科学科の近藤鍊三教授(土地資源利用学)ですので、本学同窓の兄弟がそろって母校の教授を勤めることは本学開学以来初めてのことで、橋本 誠助手(生物有機化学)はイギリスのバース大学に来年3月末までの予定で留学しています。

新聞報道などでご承知のように、国立大学の独立行政

法人化等、大学をとりまく環境は厳しくかつ速やかに進行しており、本学でもその対応に追われている状況にあります。一方、農業をとりまく環境も様変わりし、地球温暖化や農業等による化学汚染の拡大等、地球環境破壊となりつつあり、畜産・農業の発想の転換を求められています。高度な教育研究と同時に、日本の食糧生産基地と位置づけられている北海道・十勝地域にどれだけ貢献できるかが問われています。“畜大”の特色を生かした将来計画を立案するためには、同窓生の皆様からのご意見、ご助言などを加味して進めていかなければなりません。皆様の暖かいご支援をお願い申し上げます。

JJJ 別科(草地畜産専修) JJJ 主任 更科 孝夫

エンゼミヤカラフトチッチゼミが一斉に鳴き始め、暑さも本格的な十勝の夏がやって来しました。本年度は24名(女子11名)の学生諸君が入学しました。出身地別に道内が14(4)と約6割を占め、十勝が5、十勝外が9(3)、一方道外が10(4)と約3割を占めています。出身高校別に道内15(4)中十勝4で、帯広農高3、帯広北高1です。一方、十勝外は11(4)と十勝の3倍を占め、標茶高3、名寄農高2(2)網走南ヶ丘高1(1)、静内高1、富良野高1、函館中部高1(1)、名寄工業高1、東海第四高1と道内各地から、また、道外9(7)は、女子が多く、新潟県新発田農高2(2)、静岡県田方農高1(1)、滋賀県長浜農高1(1)、岩手県宮古高1(1)、山形県山形北高1(1)、神奈川県茅ヶ崎北陵高1(1)、志木高1(1)、兵庫県北須磨高1と全国各地から来ており、農高出は9(6)で、道内が5(2)、道外が4(4)でした。経営概要では、農業15(5)と6割以上多く、畜産関係が10(3)と多く、その中で酪専8(3)が多く、酪細1、肉細1、また、農産関係(兼業含)が5(2)でその中で畑専が3(2)多く、稲専1(1)、稲兼1(1)で、一方、農外が9(6)でした。このように、別科には全国から学生が来ており、昭和35年から平成10年度までに868名の修了生が社会で活躍しています。

最近益々大学の見直しが求められております。昨年の暮れには、別科の教育についても、教官と学生によるアンケート調査が行われ、先日纏めあげられました。これまで40年に及ぶ別科教育の成果を継続し、さらに発展させるための制度の変更とともに、別科の教育支援のための組織にまで踏み込んだ検討がどうしてもこれから必要となって参りました。どうかよろしくご支援をお願いします。

◇ 各支部の近況 ◇

【同窓十勝会】

会長 高田 薫(S31総農)

同窓十勝会の最近の活動概要をお伝えします。昨年11月に例会(総会)を開催しましたが、特に畜大獣医学科の東北大への統合問題が議題の中心になりました。協議の結果「帯広畜産大学獣医学科の東北大学への統合反対に関する要請について」を決議し久保学長先生に要請文を手渡しました。

その後、当会に「畜大充実方策検討委員会」を設け、獣医学科の統廃合問題とともに畜大の整備・充実にむけ



研究協議することとし、大学関係者をはじめ、広く海外の有識者を含め関係機関・団体の方々からのご意見をいただくなど、活動を進めています。

陳情活動の一環として、中川昭一衆議院議員（農水大臣）には地元来訪の機会に畜大獣医学科存続について同窓十勝会として陳情しました。

獣医学科の統廃合問題は、広くマスコミの取り上げるところになり、地元の新聞をはじめ主な新聞に取りあげられています。最近の新聞記事（朝日7月26日付）では、統合の理由に、国際水準を下回る現在の教育の現状（1校当たりの教員数が少ない）と特に実習を中心とする臨床教育などで大きな格差がつく等となっていました。

帯広、道東は日本を代表する畜産業地域、大動物の臨床には最速、地域の主産業である畜産振興に欠かせない、（畜大整備促進期成会）と獣医学科の存続との充実を求めています。

又、十勝に新設大学をめざして設置された十勝大学設置促進期成会でも、本題を離れて獣医学科統廃合問題に関心が寄せられています。当会は検討委員会での協議を深めるとともに、関係機関との連携・協力につとめながら、活動を進めたいと思います。

畜大60周年を控え、当面の大学の諸活動についても、当会活動の大きな柱として、充実、発展に寄与すべく努めています。

【札幌支部】 会長 毛利 正秀（獣医 S28）

札幌同窓会は本年6月2日略2年振りに第19回総会を開催いたしました。石狩管内より110名を越える同窓が相集い、お互い健在を確認しあいました。総会は議長に小坂栄太郎氏（獣医 S31）を指名し、前年度（平成11年～）の行事計画、収支予算については原案通り承認されました。又、役員の変更については会長以下全員の留任が求められ満場一致で決定いたしました。会長毛利正秀、副会長池田春男（酪農 S30）、安田勲（総農 S31）、田畑甲子郎（獣医 S32）、監事 井川武彦（総農 S30）、伊藤宏（化学 S40）、事務局 長館義明（獣医 S32）、役員一同気持ち新たに務めたいと思いますのでよろしくお願いたします。

懇親会では山崎正隆氏（酪農 S30、北海道議会議員農政委員長）より来賓祝辞を頂戴し、又この4月統一地方選で当選を果たした管内の市議会議員千歳市 村上洋子（酪農 S41） 恵庭市 藤岡登（草地 S50） 江別市 稲垣良平（草地 S46）の三氏を紹介、抱負を語って貰いました。

今回の特記すべき話題は何と言っても国立大学獣医学教育の再編整備に基づく本学の獣医学科移管問題であり、数名の有志から母校の危機、苦況を心配し本学の健全な発展を願って大いに激が飛び同窓の多くが同じ思いをしている事を実感致しました。

（江別同窓会について）昨年の会報で江別同窓会旗を紹介致しましたが、現在 S39 年卒業以上の同窓 41 名が正会員になっております。去る6月5日第5回総会を野幌町セレニーホールはやして開催、17名が参加しました。役員改選が行われ、前会長伊藤富雄（獣医 S20）が顧問となり、会長に紺野清（農学 S25）副会長 伊藤幸市（獣医 S30）、池田春男（酪農 S30）、監事 千田信（酪農

S29）、高尾鉄弥（酪農 S29）、幹事 伊藤稔（総農 S30）を選出致しました。懇親会では新しく江別市議会議員に当選した稲垣良平氏よりお礼の挨拶がありました。

【恵庭市畜大同窓会】 会長 藤岡 登（草地 S35）

道都札幌から南東に25 km、千歳市の北、支笏湖を見下ろす恵庭岳のふもと、恵庭市からご挨拶申し上げます。恵庭市は昭和45年に道内で31番目に市制を施行した若い街です。昭和54年に始まったニュータウン「恵み野」開発で急激に札幌のベッドタウン化がすすみ、近年の人口の伸び率は道内都市部で最高位にあります。また、空港と大都市の中心に位置する地の利を生かしての企業誘致が進み、平成元年にはサッポロビール北海道工場が新たに操業を開始するなど、道央地区の新しい産業・住宅都市に成長してきました。平成11年4月2日、市内に新しく出来た温泉に併設されたレストランにて、総勢16名が集まって同窓の宴を持ちました。これまで幾度か「同窓会」を試みはしておりますが、今回は田中清一氏（農学 S25）等を中心に大変ご苦労いただき、盛大に開催することが出来ました。市内在住の畜大同窓生は40名を数えております。今後ますます盛大な会になる事を願い、年一回の同窓会開催を目標にして行きます。

【山形県支部】 会長 三浦 重明（獣医 S20）

会員は平成10年度において50数名、活動は年一回の温泉一泊同窓会ですが、出席会員は10～14名程度と極端に悪く、出席会員の顔ぶれも毎回ほぼ同じとなっております。これは山形県在住の会員に自営業者が結構おりまして、生き物を扱う関係上なかなか家を空けられないことが一因として考えられます。また、山形県を内（鶴岡、酒田を中心とした日本海側）、最上（新庄を中心とした県北地方）、村山（山形、天童、東根、上山を中心とした内陸地方）、置賜（米沢、南陽、長井を中心とした県南地方）の4つのブロックに分けて持ち回りで近郊の温泉地で一泊懇親会の同窓会を開催することとしています。活動はなかなか活発とはいかず、1年に1度の同窓会もどこおりがちです。年齢層が新卒から第1回卒業生までと幅広く同窓会でもなかなか話が弾まず、かみ合わない現象が起こりがちであります。老いも若きも、同席で面白おかし、良き学生時代を思い出して「道唱歌」を合唱しています。

今年は、是非同窓会を開催したく思っております。昨年開催できなかった分、盛大にたく思います。まだ出席したこのない方、山形に引越して来られた方、どうか、事務局までご一報下さい。お待ちしております。この紙面をお借りしましてお呼びかけさせて頂きました。

三浦重明（会長）電話 0233-22-2513

又は神林雅治（事務局）電話 023-681-7977

【秋田県支部】 会長 月澤 雄一（獣医 S18）

平成11年度の支部総会は「紅葉の頃県南で」という予定ですので、恒例の春の男鹿の鯛祭りに合わせた「魚喰い同窓会」は今年は見送りとなり今回の会報のネタも不足ですので、去る6月上旬秋田で開催された「一期会」の様子を報告申し上げます。

一期会（S18卒）は、昭和63年山形県南陽市赤湯温泉での開催を皮切りに、今年で12回目になります。現役を退

き、夫々時間や懐にも少しはかりのゆとりが出来た老後を毎年励まし合つて生きて行こう、という事で健在な同級生の居る場所を待廻り、北は北海道から南は韓国済州島で開催してきたものです。平成11年6月7～8日、31名の参加を得て12回目の一期会を男鹿温泉セーゴグランドホテルで開催しました。ほば7候にも恵まれ、秋田駅から大潟村（八郎潟干拓地）を経て、寒風山、男鹿半島海岸を一周した後、鯛祭り中の男鹿の海産物を堪能し、ナマハゲの歓迎を受けるなどローカルな夜を楽しみました。翌日は角館町の武家屋敷見学後、田沢湖畔のホテルで昼食を摂り湖畔を一周し、再会を約束しながら駅へ、空港へと散会したのでありますが、18年卒の104名中、生存者は現在62名で毎年3名前後が欠けて逝くのは淋しい限りであります。来年（12年度）は九州鹿児島と決定していますが、足腰の弱りも目立ち始めており、再来年は帯広（大学開学60周年）でという声もあり、それが一期会の終着駅になるのでは、と危機の念を拭えないでいる次第です。

これまでも大学の発展は目覚ましいものがありました。60年前の入学当時を思い起こしながら、一期会は心から大学の繁栄を喜んで参りました。更なる発展を又ひたすに願ひ続けるものであります。

【新潟県支部】 事務局 佐藤 将典（獣医S46）

新潟県では、今まで有志での集まりはありましたが、同窓会として組織だった活動はしていませんでした。昨年、母校同窓会の意向もあり当県でも支部結成の動きがあり、同窓会名簿（平成9年版）の地域別索引を参考に該当会員に案内したところ、33名の方と連絡がとれました。出身学科は、獣医38名（うち高獣・獣専卒4名）総合農学科1名、酪農学科4名、農産化学科1名、農業工学科1名、草学科1名、家畜生産科学科1名、畜産環境学科5名、別科1名でした。その他2名が転勤のため県外（北海道、東京都）に異動しました。このような経緯で平成10年10月17日、新潟市・厚生年金会館において新潟県同窓会（兼新潟県支部）の結成会を開催しました。当日は、16名の出席があり会則を定めた後、懇親会に移り帯広での学生時代の思い出や卒業後の話に花が咲きました。また「帯広畜産大学道謡歌」の作詞者名畑武男大先輩も出席され、最後に全員で道謡歌を合唱し会員相互の親睦を深めました。なお、役員は次のとおり決まりました。

顧問：中野泰栄（獣専S19）、名畑武男（獣専S19）、会長：小林悦夫（獣医S32）、副会長：伊藤道秋（総農S38）、幹事：荒川治男（獣医S36）、五郎谷克二（獣医S38）、佐藤将典（獣医S46）、藤田毅（酪農S54）、監事：楠原征治（獣医S40）。

【関東地区同窓会 会長 守田 貞公（獣医S28）

平成11年度の関東地区同窓会は、去る6月26日（土）午後6時から、銀座ライオン7丁目店で開催されました。会場をこの店にした理由は、昨年同窓会以降、折に触れて耳にしていた会員諸氏の意見をもとに、これまでも一変した雰囲気で行いたいとの幹事一同の願いから実現しました。普段は余り耳にすることのないプロの歌手による歌曲のソロや合唱を聴けると言うことで

事務局長の渡部憲嗣（獣医S32）と総務担当の近藤卓夫（獣医V39）両氏の肝入りによるところが大きかったようです。しかも、その合唱団のリーダー役の男性が、かつて副会長の永江 巖（農化S23；現在、日本パレエ協会常務理事）から指導を受けたことがあるので、同会場で思わぬ対面劇もあり、先方からは演目数で少なからずサービスがありました。

同窓会は総会后、懇親会に入り、宮崎日出夫（獣医S18）の音頭で乾杯した後、すぐに前述の合唱団による「乾杯の歌」をはじめ懐かしのメロディーのコーラスやソロが次々に披露されました。出演時間は当初15分の予定が倍近くにサービスされ、出席者は歌曲のライブを堪能する事が出来ました。

その後、この度、日本獣医師会副会長に選出された辻弘一氏（獣医S34）の挨拶等があり、和気あいあいのうちに懇親会を終了しました。

終わりに事務局スタッフを紹介します。事務局長：渡部憲嗣（獣医S32）、総務担当：近藤卓夫（獣医S39）、五十島一恵（獣医S63修）、会計担当：尾形真二（獣医S39）、山中 明（酪農S43）、広報担当：中島玉雄（獣医S32）、安田 英巳（獣医S49）、名簿担当：野川浩正（獣医S39）、高鳥浩介（獣医S45）、以上。

【九州支部】 会長 深田 泰三（酪農S30）

昭和43年10月、福岡市周辺に在住する卒業生11名により、帯広畜産大学同窓会九州支部（沖繩を含む）が発足して以来、深田泰三会長と高木信敏事務局長（獣医S42）で31年目を迎えました。本会は基本的には毎年11月の最終土曜日に九州・沖繩のどこかで総会を開催しておりますが、獣医学会や畜産学会が九州・沖繩で開催されることを事前に察知した時にはその日程にあわせて開催することにしています。ちなみに平成9年度には鹿児島で獣医学会が開催されましたので、多くの先生方とともに総会・懇親会を鹿児島で開催できました。今年も10月に熊本で開催されるのですが、総会の案内を出した後で熊本開催を知りましたので、今年は残念ながら一緒にできません（これは本部事務局の手落ちでした。深謝）。

現在、九州・沖繩に同窓生が170名おり、それぞれの分野で活躍しております。内訳は公務員51名、民間会社が45名、農業団体が23名、自営が26名で、その他アートスタジオや鍼灸院など多様な分野に数名おられます。当支部は最初に書きましたように結成後、31年目を迎えておりますので、役員の高齢化、総会出席者の高齢化が進んでおり、これから若手会員の総会出席率を如何に高めるかが問題です。他の支部のご経験をお聞かせ下さい。

終わりに、九州で学会などが開催されるときは、出来るだけ早く、最低でも3カ月前くらいには是非ご連絡下さい。（申し訳ありません。事務局）

【ブラジル支部】 代表 小笠原 義元（酪農S32）

ブラジル支部事務担当の坂垣 隆氏（家畜生産S59）より支部代表の浅井 澄（獣医S23）氏が肝臓ガンのため4月7日に亡くなられたとの連絡がありました。この代表の逝去により代表が上記の小笠原 義元氏に変更されました。連絡先は次の通りです。

(故 浅井 澄様のご活躍に敬意と感謝を表し、同氏のご冥福をお祈りします。合掌。事務局)

総会および懇親会のご案内

平成 11 年 9 月吉日

帯広畜産大学同窓会会員各位

帯広畜産大学同窓会長 吉川睦夫

同窓会総会および懇親会の開催について

帯広・十勝は収穫の秋を迎えようとしておりますが、同窓生の皆様には如何お過ごしでしょうか。

さて、皆様にはご多忙のことと存じますが、下記の要領にて2年ぶりの総会ならびに懇親会を開催いたしたく、ご案内申し上げます。万障お繰り合わせの上、ご出席下さいませようお願いいたします。同窓会のあり方、60周年記念事業について、名簿の整備等に関して、皆様のご意見を拝聴し、今後の同窓会の運営などに反映させて頂ければと存じます。

なお、大変恐縮でございますが、**総会又は総会と懇親会にご出席いただける方のみ、同封のハガキに所定の事項を記入の上、10月17日まで必着でご投函**いただきたく存じます。これも経費節減のためと、ご理解いただければ幸いです。

記

日時：平成11年10月23日（土曜日）午前11時より

場所：ホテルベイス（帯広駅北西側）

- 議題： 1) 平成10年度事業報告
2) 平成10年度会計報告
3) 平成10年度監査報告
4) 役員改選
5) 平成11年度事業計画
6) 平成11年度予算案
7) 帯広畜産大学への要望書提出

懇親会

日時：平成11年10月23日（土曜日）総会終了後

場所：ホテルベイス、会費：3,000円

懇親会ご出席の方は、同封のハガキに所定の事項を記入の上、10月17日まで必着でご投函下さい。

*この総会への支部会代表1名の参加には、同窓会の本部で片道航空券分の旅費の支援を試行してみることになりました。もし、希望支部が少ないときは予算の範囲で増額することもあるかも知れませんが、まだ財政基盤が不十分ですので全額支援が出来ず申し訳ありませんが、各支部でご検討いただけますようお願い申し上げます。何か不明な点などありましたら、下記へご連絡下さい。

山田純三（事務局）電話：0155-49-5350

Fax：0155-49-5354；石橋憲一（庶務）

電話：0155-49-5571 Fax：0155-49-5577

同窓十勝会（高田 薫会長）では、同窓会総会の前にも例会を開催いたしますので、多数の会員の皆様のご出席をお願い申し上げます。

日時：平成11年10月23日（土曜日）午前10時より

場所：ホテルベイス

（このご案内は支部の経費節減に協力し掲載いたしました。なお、各支部会でこのような類の掲載希望がありましたら遠慮無く事務局にお申し付け下さい。この会報は毎年9月末か10月はじめに発行予定です。）

☆☆☆ 事務局 便り ☆☆☆

【平成10年度事務局仕事経過】

（平成10年10月～平成11年9月）

| | |
|-------------|---------------------------------------|
| 平成10年10月16日 | 3年次編入学および大学院合格者へ協賛金納入願いを発送 |
| 10月06日 | 学内代議員会（畜産大学） |
| 12月07日 | 平成10年度名簿発送 |
| 12月17日 | 別科推薦入学および学部推薦入学Ⅱ合格者に協賛金納入願いを発送 |
| 12月21日 | 畜大便りを各支部へ発送（岐阜県支部を含む23支部） |
| 12月21日 | 第4回役員会 |
| 平成11年 1月07日 | 第4回役員会議事録送付 |
| 2月09日 | 推薦入学、大学院、帰国子女および社会人特別選抜合格者へ協賛金納入願いを発送 |
| 3月05日 | 学部前期および別科合格者へ協賛金納入願いを発送 |
| 3月12日 | 卒業および修了予定者に終身会費納入願いを配布 |
| 3月23日 | 学部後期合格者へ協賛金納入願いを発送 |
| 3月26日 | 恵庭支部設立総会用資料の発送 |
| 4月13日 | 畜大便りを各支部へ発送（恵庭支部を含む24支部） |
| 7月24日 | 平成11年度第1回代議員会 |
| 8月26日 | 畜大便りを各支部へ発送 |
| 9月02日 | 同窓十勝会役員と本部役員と総会へ向けての意見交換 |
| 10月23日 | 第2回代議員会および総会（予定） |

【平成11年度事業計画（案）】

| | |
|------------|---------------------------------------|
| 平成11年10月中旬 | 3年次編入学および大学院合格者へ協賛金納入願いを発送 |
| 11月上旬 | 第1回役員会 |
| 12月中旬 | 別科推薦入学および学部推薦入学合格者に協賛金納入願いを発送 |
| 12月下旬 | 畜大便りを各支部へ発送 |
| 平成12年 2月中旬 | 推薦入学、大学院、帰国子女および社会人特別選抜合格者へ協賛金納入願いを発送 |
| 3月上旬 | 学部前期および別科合格者へ協賛金納入願いを発送 |
| 3月中旬 | 卒業および修了予定者に終身会費納入願いを配布 |
| 3月下旬 | 学部後期合格者へ協賛金納入願いを発送 |

4月中旬 畜大便りを各支部へ発送
7月中旬 平成12年度第1回代議員会
8月下旬 畜大便りを各支部へ発送
9月下旬 同窓会報、名簿頒布案内の発送

〔平成9年度会計報告〕

(平成9年10月1日～平成10年9月30日)

通常会計収入の部

| 項目 | H9予算額 | H9決算額 | 備考 |
|--------|-----------|-----------|--------------|
| 前年度繰越金 | 1,721,206 | 1,721,206 | 平成8年度より |
| 同窓会協賛金 | 4,800,000 | 4,540,000 | 20,000円×227名 |
| 名簿販売 | 2,099,000 | 1,787,000 | 名簿販売、広告掲載料 |
| 終身会費 | 500,000 | 871,000 | 82名 |
| 雑収入 | 10,000 | 43,518 | 郵便貯金利子 |
| 合計 | 9,031,206 | 8,962,724 | |

支出の部

| 項目 | H9予算額 | H9決算額 | 備考 |
|--------|-----------|-----------|----------------|
| 印刷代 | 3,500,000 | 3,037,650 | 名簿、会報、振替用紙、葉書等 |
| 通信費 | 2,200,000 | 398,825 | 名簿等発送、料金受取人払等 |
| 人件費 | 600,000 | 216,600 | アルバイト料 |
| 振替手数料 | 62,000 | 68,280 | |
| 大学後援経費 | 400,000 | 330,000 | 学術交流、後援会など |
| 事務費 | 800,000 | 487,314 | 事務用品、香典、コピー代等 |
| 会議費 | 250,000 | 132,642 | 役員会、代議員会 |
| 交通費 | 200,000 | 120,390 | 会議旅費、交通費 |
| 役員手当 | 100,000 | 102,500 | 10名分 |
| 記念品代 | 330,000 | 378,000 | キーホルダー(300個) |
| 特別会計へ | 100,000 | 0 | |
| 予備費 | 489,206 | 416,069 | ソフト、プリンター |
| 次年度繰越金 | | 3,274,454 | |
| 合計 | 9,031,206 | 8,962,724 | |

収支決算報告は会計年度の關係で1年遅れになります。ご了承下さい。本報告は会計監査を受け、代議員会で承認されました。

〔平成10年度予算案〕

(平成10年10月1日～平成11年9月30日)

通常会計収入の部

| 項目 | H10予算額 | (H9決算額) | 備考 |
|--------|-----------|-------------|------------|
| 前年度繰越金 | 3,274,454 | (1,721,206) | 平成9年度より |
| 同窓会協賛金 | 4,800,000 | (4,540,000) | |
| 名簿販売 | 1,500,000 | (1,787,000) | 名簿販売、広告掲載料 |
| 終身会費 | 300,000 | (871,000) | |
| 雑収入 | 50,000 | (43,518) | 郵便貯金利子 |
| 合計 | 9,924,454 | (8,962,724) | |

通常会計支出の部

| 項目 | H10予算額 | (H9決算額) | 備考 |
|--------|-----------|-------------|----------------|
| 印刷代 | 4,000,000 | (3,037,650) | 名簿、会報、振替用紙、葉書等 |
| 通信費 | 2,200,000 | (398,825) | 名簿等発送、料金受取人払等 |
| 人件費 | 600,000 | (216,600) | アルバイト料 |
| 振替手数料 | 70,000 | (68,280) | |
| 大学後援経費 | 500,000 | (330,000) | 学術交流、後援会など |
| 事務費 | 800,000 | (487,314) | 事務用品、香典、コピー代等 |
| 会議費 | 250,000 | (132,642) | 役員会、代議員会 |
| 交通費 | 200,000 | (120,390) | 会議旅費、交通費 |
| 役員手当 | 100,000 | (102,500) | 10名分 |
| 記念品代 | 450,000 | (378,000) | キーホルダー(300個) |
| 予備費 | 600,000 | (416,069) | ソフト、コンピューター関係 |
| 雑費 | 154,454 | (0) | |
| 合計 | 9,924,454 | (5,688,270) | |

現在、この予算に従って事業を遂行しております。今年度の決算は10月23日に予定されており、総会に報告され、新年度の予算と事業計画が提案されます。

平成10年度特別会計予算：収入の部

| 項目 | 予算額 | 備考 |
|--------|------------|-----------|
| 前年度繰越金 | 10,000,402 | 平成8年度より設定 |

特別会計：支出の部

基金として貯めておくために支出予定はありません。

〔終身会費納入のお願い〕

協賛金は平成5年4月入学時に1万円いただき始めたもので、卒業または修了時に終身会費に振り替わるようになっております。この制度の導入により、終身会費の納入率が高まり、同窓会の財政基盤が少しづつ確立し、本会の目的の一つである母校の後援も少額ではありますが出来るようになってまいりました。しかし、近年、その納入率が低下し、その対策に苦慮しております。会則(第25条)では卒業または修了時に終身会費2万円を速やかに納入する事になっておりますので、未納の会員の方は振替用紙を用いて(通信欄に終身会費納入とご記入下さい)自己申告で終身会費の納入をお願い申し上げます。平成9年10月の総会で協賛金を2万円に増額する案が承認されましたので、平成10年入学者より2万円の協賛金をいただいております。終身会費も2万円になる次第です。平成10年入学者が修了又は卒業される年は、別科では修学年限が2年ですから平成12年4月から2万円になり、獣医学科以外の学科を卒業の方は平成14年4月から、獣医学科の卒業生は平成16年から終身会費が2万円になります。納入をより確実にするために、納入者には名簿に納入済み等と記載することを検討中です。どうか、終身会費未納の方は値上がりする前に1万円を納入いただきたくお願いいたします。